

吟剣詩舞

g i n k e n s h i b u

令和6年度全国吟詠コンクール決勝大会

優勝者インタビュー

東日本大震災からの復興のシンボル、
大熊町交流ゾーンで吟剣詩舞を公演

震災を超える

吟剣詩舞の舞台

吟剣詩舞の故郷

「赤間関」(山口県)

表紙の詩

楠公を詠ず 日柳燕石

日本に 聖人有り

其の名を 楠公と謂う

誤つて 干戈の世に生まれ

剣を提げて 英雄と作る



日本財団助成事業

第3回外部識者検討会(日本吟剣詩舞振興会主催)

来年の武道館大会に向けて

吟剣詩舞の普及振興に関し、斯界内部の議論とは別に、広くさまざまな分野で活躍する外部の有識者をお招きして、吟剣詩舞界の将来発展につながる意見を交換する「外部識者検討会」が設置されました。第1回は6月、そして8月の第2回を経て、9月26日、第3回目の検討会が開催されました。

検討会は冒頭に日本吟剣詩舞振興会の沼崎会長から「本会の最大イベント、全国吟剣詩舞道大会ですが、全国の皆さまから日本武道館での開催復活の熱烈なご要望があり、また、第1回大会から多大なる助成をいただいている日本財団の笹川陽平会長からも復活すべきとのご意見を賜り、来年、令和7年(2025年)

11月11日(火)に開催する運びとなりました」という挨拶がありました。

検討会は、各位からさまざまな斬新な意見が出て活発に議論が続きました。

若者の関心を喚起するためにはSNSをはじめとする新しいメディアの活用が必至。オンラインレッスンの導入、後継者向けワークショップ

プなどへの支援が必要。海外へ向け日本传统文化である吟剣詩舞の魅力積極的に発信すべき。吟剣詩舞の真髄を明確化し、その上で新しい表現方法を模索する。など、吟剣詩舞全体の認知度をあげることに伴う普及策などが提案されました。

その上で、来年、日本武道館の開催が決定したことに言及。開催までにまだ時間のある武道館大会に向けて、この機会を普及振興のチャンスととらえ、企画の段階から徹底的に議論して進めるべきで、外部識者検討会も今回で終わることなく、不定期でも続けてもいいのではないかと。という意見も出て3回にわたる検討会を終えました。

外部識者検討会メンバー

【外部識者】

久米信行

株式会社久米繊維工業取締役相談役、日本吟剣詩舞振興会理事

武井涼子

フェリス女子大教授、ヤンマー取締役、日本吟剣詩舞振興会理事

原 正隆

元NHK伝統芸能部チーフディレクター

齋木彩染

彩佑流 宗家、全国高校総合文化祭参加チーム指導者(六本木高校)

【日本吟剣詩舞振興会】

沼崎 富

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会会長

徳田寿風

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会副会長

早淵鯉将

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会副会長

池内賢二

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会専務理事

鈴木吟亮

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会理事

※【外部識者】大崎 洋 一般社団法人 mother ha.ha 代表理事、吉本興業ホールディングス株式会社 元会長(今回は欠席)